



成長するフィリピンと日本企業

日外協の『海外派遣者ハンドブック〈フィリピン編〉』が完成した。
初めてフィリピン編を刊行したのは2014年、12年ぶりの改訂になる。

フィリピンは日本企業にとって、長らく投資先・進出先として大きな注目を集め、英語によるコミュニケーションに長けた若い人材の供給元であり続けてきた。その直接投資は、従来の電機・電子部品産業や輸送機械産業の集積にとどまらず、今では、小売やサービスなどの第三次産業にも広く及び、多くの日系企業はさまざまな分野で成功を収めている。

国民は若く、人口ボーナスと好景気に沸き、さらなる経済発展が期待される一方で、ASEAN唯一のキリスト教徒が多数派の国にして、最も高い経済成長が続くフィリピンと、日本企業はこれからどう向き合えばよいのか。

ハンドブック執筆者と、現地日系企業の関係者に聞いた。
(聞き手：国際人事センター長 坂本 冬海)

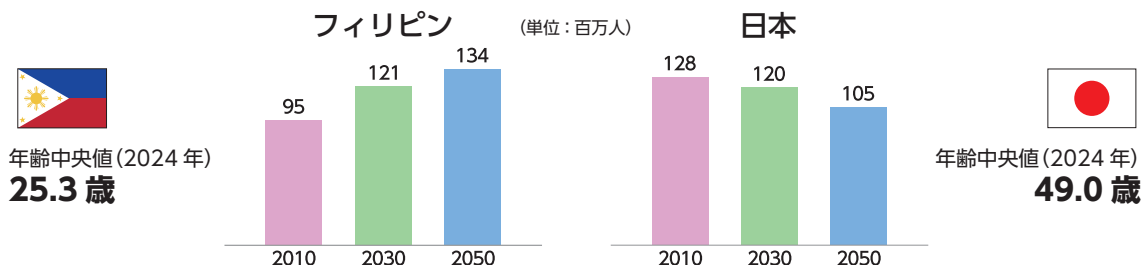
フィリピン基礎データ

国名	フィリピン共和国 Republic of the Philippines
面積	29万8170平方キロメートル(日本の約8割)。7641の島々がある。
人口	1億1272万9484人(2024年フィリピン国勢調査)
首都	マニラ(首都圏人口約1400万人)(2024年フィリピン国勢調査)
言語	国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語および英語。180以上の言語がある。
宗教	ASEAN唯一のキリスト教国。国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%。イスラム教は5%(ミンダナオではイスラム教徒が人口の2割以上)。
民族	マレー系が主体。ほかに中国系、スペイン系および少数民族がいる。
政体	共和制、大統領制
在留邦人数	1万2648人(2024年10月時点、出所：外務省 海外在留邦人数調査統計：2024年版)

出所：外務省・ジェトロ(日本貿易振興機構)

フィリピンと日本の人口の推移予測 (2010年 2030年 2050年)

- ・フィリピンの人口は2050年には1億3400万人を超える
- ・年少人口(0～14歳)が約3割を占め、毎年、約200万人が生産年齢人口に加わる見通し

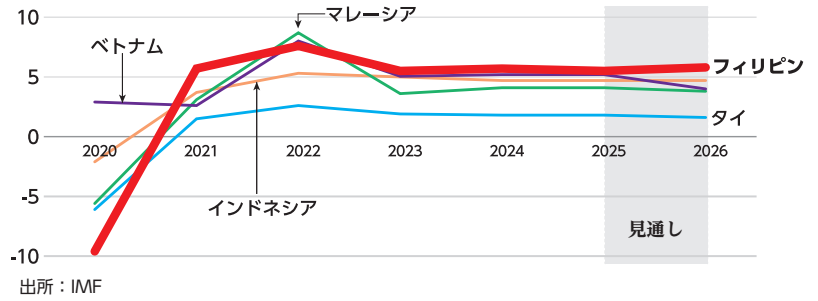


(注) 人口は推定値(2010) / 中位推定値(2030、2050)、年齢中央値は2023年の予測
出所：国連人口予測(2024年)、ジェトロを元に日外協作成



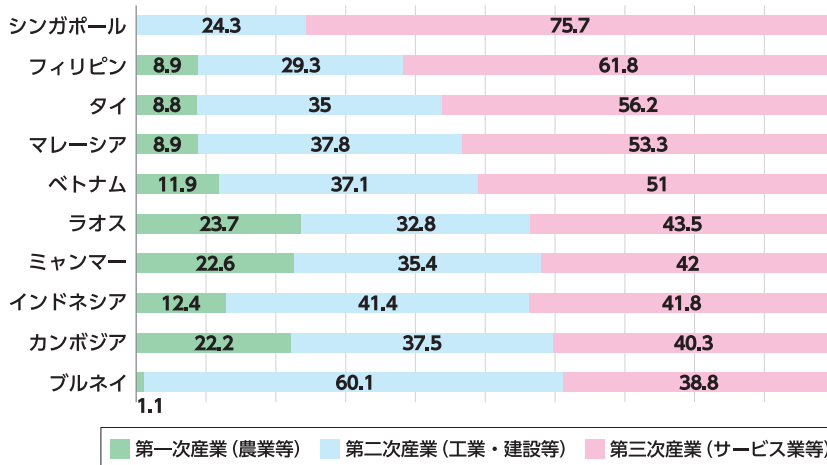
ASEAN 5 カ国 GDP 成長率の推移 (前年比、単位：%)

コロナ禍の影響から回復、約5%の安定的な経済成長を継続



GDPの産業別構成比 (2024年、単位：%)

コールセンター等のサービス業が強み 第三次産業の割合はシンガポールに次いで高い



出所：『ASEAN Statistical Yearbook 2024』 および 『ASEAN Statistical Brief 2024』

フィリピンの投資環境上のメリット 🍷

「市場規模・成長性」「人件費の安さ」「ワーカー等の雇いやすさ」など

フィリピンの投資環境上のリスク 🍷

「現地政府の不透明な政策運営」「人件費の高騰」「税制・税務手続きの煩雑さ」など